

## 全国へ広がれ！

## 「絶滅危惧」若手バーダーを応援する「Young探鳥会(ヤン探)」

日本野鳥の会東京幹 石亀 明

## ●ヤン探って何？ 参加者層別探鳥会

「初心者向き」「平日実施」など経験や年齢、属性などで参加者層を分けて心理的なハードルをさげて集まりやすくした「参加者層別探鳥会」が実施されています。

全国で、初心者、親子、ジュニア、学生、女性、若手、おとな、シニア向けなど様々な探鳥会が開催されていますが、ヤン探は、「心の若い方」向けの探鳥会となっています。



## ●ヤン探の歴史は！？

1997年神奈川でヤン探が始動。今までにない同年代との知識・情報交換の楽しさと切磋琢磨できる環境に触れ感銘を受けました。しかし、若手担当者はライフイベントも多く、進学、留学、就職、転勤、土日勤務、結婚、出産などで運営が滞り現在活動を中止しています。一方、東京は2007年から63回開催し、若手担当も徐々に増加し始め開始10年目に突入しました。

## ●「ヤン探」＋「交流会」＋「SNS」＝「三本柱」

東京では「ヤン探」以外にもリアルで会う「交流会」と言う幹事と探鳥会リーダー交流の場にヤン探参加者を招き、雑談＋講習会を毎月第三水曜日夜間に開催し既に100回以上開催しています。ただし参加者数が増加しすぎ、交流会は会場の問題を抱えつつあります。また、ネット上での広報宣伝と共に参加者の交流促進を図るため、独自にSNSサイトtwitter、Facebook、mixi、google+、Blogなどで情報を流し参加者を募っています。

## ●ブレイクの兆しは『BIRDER』と『全国総会』にあり

「三本柱」で徐々に参加者が増え始めた所で嬉しい協賛の誘いを頂きました。

2012年野鳥専門誌『BIRDER』に協賛頂きヤン探を開催し、翌年レポートを掲載頂いた。おかげで全国的な認知度が一気に上がりました。

嬉しかったのは、ヤン探を開催していない地区の若手が、東京までわざわざ来て参加し、SNSで「地元でヤン探開催したい」や「ヤン探うらやましい！」と声をあげ楽しげな感想やスロイ意見を多数あげてくれた事です。

さらに2013年公益財団法人日本野鳥の会の全国的な会合『全国総会』でヤン探について解説する機会を得た事で、2014年栃木の開催に繋がり、2015年奈良、岡山、埼玉で新たに開催され、2016年に京都でも始動しだし全国に広がりつつあります。

## ●逆風

一方で多くの若手・中核人材を育ててきた大阪南港野鳥園の縮小、さらに千葉県の実徳野鳥観察舎の閉館など多くのバーダーの拠点となって文化を発信する施設がピンチに陥っていますが、そうした資産こそ若手に引き継いで行きたいものです。

## ●夢は海外若手団体と交流し次世代へ

アメリカではYoung Birders Clubの活動が元になったラブコメディ映画がヒットし、広く認知された活動となっています。将来の夢は大きく国内にとどまらず海外の若手BIRDERとの橋渡しや、参加した若手が活動を担って次の世代につないでもらう。そうなれば様々な「絶滅危惧」が解消するのではないだろうか？と夢見ています。

(いしがめ・あきら)